



# 福島県 事務研究会報

<http://f-jimuken.kir.jp/new/> (ホームページアドレス)

第120号

令和4年8月4日  
福島県公立小中学校  
事務研究会  
発行人 加勢法子  
編集 情報委員会

- ◆ P1 東北大会福島大会に向けて
- ◆ P2~3 総会・学校事務研修会報告
- ◆ P4~5 東北大会実行委員の活動について
- ◆ P6 新規採用学校事務職員研修を受けて
- ◆ P7 新入会員紹介
- ◆ P8 支部活動紹介 (田村・東西しらかわ・北会津)

## 東北大会福島大会に向けて



福島県公立小中学校事務研究会副会長 佐藤 美雪

第24回東北地区公立小中学校事務研究大会福島大会兼第37回福島県公立小中学校事務研究大会まで2か月余りとなりました。今大会は東日本大震災後初めて、そして14年ぶりとなる福島県開催の東北大会となります。

大会テーマを「新時代の学びを主体的にマネジメントする学校事務」、サブテーマを「連携と協働を展開し、子どもの豊かな育ちを支援する学校事務職員」とし、10月6日・7日の2日間、郡山ユラックス熱海をメイン会場に開催されます。1日目には文部科学省行政説明、6つの分科会発表があり、2日目には記念講演、分科会報告会が行われます。記念講演は、元ラグビー日本代表で郡山フロンティア大使の大野均様を講師としてお招きし、ご講演をいただきます。

県事務研役員、理事、専門委員に、委嘱、公募による実行委員を加え、これまで皆一丸となり開催に向けて準備を進めてきました。新型コロナウイルス感染症対策のため参集した実行委員会を最小限にし、オンライン会議

を併用して協議を重ねてきました。

新型コロナウイルス感染症が収束していない状況での開催となるため、感染拡大防止対策としてQRコードを利用した非接触受付システムによる迅速な受付や、昼食は分科会会場ごとに分かれ距離を保てる環境にするなど、安心・安全な大会となるよう準備を進めています。

また、実行委員公募者により結成された「サクラ・ユーフォリア」は、これまで大会や福島県の魅力を伝えるためPR活動を行ってきました。さらに、大会1日目には大会参加者の交流会「ジムコネクト」を計画しています。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になったレセプションの代替企画で、誰でも参加できるものとなっております。参加者の皆様には、是非参加し交流を広げていただきたいと思います。

最後になりますが、会員の皆様には是非今大会に参加して、自己の資質や力量を高めてほしいと願っております。

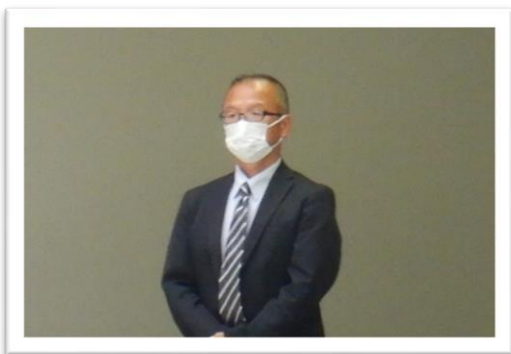
令和4年度 総会・学校事務研修会報告

令和4年5月25日、郡山ユラックス熱海において3年振りとなる参集しての総会・学校事務研修会が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策による入場制限の関係上、総会後の学校事務研修会は、役員・代議員及び東北大会実行委員公募者のみの参加となりました。情報委員会の協力のもとスムーズな受付方法を導入したことや、参加者自身が座席等の消毒をするなどの万全の対策を講じながら行われました。



会長あいさつでは、学校事務職員の研修制度の在り方について研究を重ね、学校事務関係諸団体のご協力も頂戴した結果、県義務教育課主催の令和4年度新規採用学校事務職員研修会がオンラインで開催されたことの報告や、今秋開催の東北大会福島大会へ向けて公募による実行委員が自ら組織を立ち上げ活動をしており、次世代へつなぐ活動が行われていることについて話がありました。

祝辞では、ご臨席された来賓の皆様より、専門職として学校運営へ主体的に参画し、教育の発展に寄与されることを期待しますとのご祝辞をいただきました。功労者表彰では中井俊之様、橋本一美様にご推薦され、中井様より、事務研での経験がとても勉強になり、退職後の今も活かされている。将来の役に立つため声をかけられた際には積極的に引き受けて活躍してほしいとお言葉をいただきました。



感謝状を受けられた中井俊之様

議事では、令和3年度の事業報告と会計決算報告並びに監査結果について、コロナ禍のためオンライン会議が増えたことによる旅費の支出減のため、余剰金の一部を特別基金へ繰入れがあったことが報告され承認されました。令和4年度の議案はすべて可決されました。詳細は総会要項をご覧ください。



令和4年度 県事務研役員組織

- 会 長 加勢 法子 (富 岡 小)
- 副 会 長 佐藤 美雪 (霊 山 中)
- 松本 義一 (小 野 小)
- 若林 和徳 (朝 日 小)
- 鈴木みのり (平 三 中)
- 事務局長 尾又 芳行 (棚 倉 中)
- 事務局次長 鈴木 邦彦 (石 川 小)
- 事務局員 松井 伸枝 (二本松北小)
- 舟木 希 (明 和 小)
- 鍋木麻衣子 (富 田 東 小)
- 渡辺 優 (三 河 小)
- 遠藤 恭平 (大 信 小)
- 高橋 真二 (裏 磐 梯 小)
- 加藤 寛基 (向 陽 中)

**研修Ⅰ 講話****テーマ 「福島県の教育施策と学校事務職員の役割」****講師 福島県教育庁義務教育課 主任指導主事 橋本 美弥子 様**

令和3年12月に策定された第7次福島県総合教育計画の概要をご説明いただきました。本県教育の現状を基に、令和4年度からの9年間を見据えて作成された計画であり、福島ならではの教育を充実させ、「学びの変革」を進めていくための指針であるということでした。変化の激しい社会に対応できる人材を育成するために、年次計画として作成される「学びの変革推進プラン」の6つの施策に基づき、推進していくことになるとのことでした。

複雑・多様化した課題への解決、教員が子どもと向き合う時間の確保のために、学校事務職員はチームとしての学校の一員として学校運営に関わっていく必要があるため、地域の方々と学校をつなぐ、市町村行政と学校をつなぐ役割を示され、各学校の教育目標の趣旨を理解し具現化するために主体的に参画することができる学校事務職員であることに期待しているとお話いただきました。

**全体研修****テーマ 「あなたの本音が聞きたい！こんな研修があったらいいな  
一次期長期研修計画へつなぐ3時間目」****担当 プランニング委員会**

「これまでの研修を本音で振り返る」と「なりたい学校事務職員になるための研修をイメージする」という2つのめあてに沿って、Google Formを活用したリアルタイムでの意見交換が行われ、各世代の意見を聞くことができました。

受講してよかった研修や今後受講したい研修について、ビギナー世代からは初任者研修や防災研修、受講してよかった研修やビギナー世代に受講させたい研修について、エクストラ世代やプロフェッショナル世代からは、コミュニケーション能力に関する研修や法令事務など、様々な意見が挙がりました。また、尊敬する学校事務職員はどのような方か、これからの県事務研の研修の在り方についてどのようなものであってほしいか意見を聞くことができました。



変化する時代のなかで、学校事務職員にはどのようなスキルや考え方が必要になるかを会場全体で考えることができた研修となりました。今回いただいた意見を基に、福島県の実状に合った次期研修計画を検討していくこととなります。

**研修Ⅱ 講演****テーマ 「学校事務職員の役割とセルフマネジメント****～未来の学びをデザインするために～****講師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部 部長 藤原 文雄 様**

学校教育法の改正により学校事務職員の職務規程が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」となった意義、趣旨を明示いただき、その上で学校事務職員の役割とキャリアステージに応じたセルフマネジメント（未来から今を振り返り、今何をすべきかを考え仕組みを作ること）についてご講演いただきました。

学校事務職員に期待される役割について、教育的素養を持ったリソースマネージャーとして学校運営に参画することを挙げられました。「リソース」とは、資源や財源のことを言い、子どもたちにとっての情報や施設に値します。学校事務職員は、環境条件を整備するリソースマネージャーとして間接的に教育の質の向上に貢献することができるとのことでした。また、キャリアステージによって見渡せる仕事の範囲や知識、経験の量も変わるため、キャリアステージに応じた意図を持ち、学校事務職員らしさを生かしながら学校を良くする取り組みを行ってほしいと話されました。





いよいよ10月6・7日開催！！

## 第24回東北地区公立小中学校事務研究大会福島大会に向けて ～各実行委員会の活動内容紹介～

第24回東北地区公立小中学校事務研究大会福島大会までいよいよあと2か月となりました。前号では各実行委員会の活動内容を紹介いたしましたが、今号では「参加者に当日見ていただきたいアピールポイント」と、直近の活動内容を会員の皆様へお知らせいたします。

各部とも開催に向け、日々切磋琢磨しながら活動しています。会員の皆様には、研修内容はもちろんのこと、各部の活動にご協力いただけましたら嬉しいです。

### 総務部

会場案内・受付主任 白旗 優子（ひらた清風中）

総務部は、郡山支部24名、石川支部5名、公募の意欲あふれる12名で構成され、会場内の受付・案内・駐車場・バスの乗車補助・お弁当の手配等を担当しています。

3年ぶりの県大会（兼東北大会）で、多くの方の参加が見込まれるため、会員の皆様が安心して大会に参加できるよう、受付ではQRコードリーダーを使用しての時間短縮、要項等は手渡しとしない、密を避けるため分科会会場での昼食等、安心安全な対策を講じているところです。

お弁当は「これぞ福島！」と呼べる浜・中・会津の自慢の一品を詰め込んだスペシャルなものとなっていますので、楽しみにしていただければと思います。

この大会が安全で実りあるものになるよう「オール福島」で取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

### 編集部

編集副部長 西條 圭亮（米小）

編集部の主な業務として研究集録及び記録集の作成があります。研究集録の顔となる表紙のデザインは、「美しい福島・広い福島（三地方それぞれの特色）・元気です福島」をコンセプトに作成し、「福島の今」を感じていただけるデザインに仕上がりました。背表紙には東北6県のキャラクターを掲載し、分科会中表紙には用紙内側にインデックスを印字するなどの工夫をしておりますので、是非注目していただきたいと思っております。大会終了後の記録集作成では、発表内容や研究協議はもとより、文部科学省行政説明や記念講演についても皆様にしっかりと伝えることができるように進めて参ります。



今回の東北大会は、福島県の魅力・復興をアピールする機会でもありますので、大会を通して福島県の魅力を発信し、参加してよかったと思っただけの大会を目指し取り組んで参ります。

### 運営部

運営副部長 角田 貴子（小名浜二中）

運営部がこれまで行ってきた業務内容は大きく次の三つです。

- 1 開会式、文部科学省行政説明、分科会、記念講演、分科会報告会・閉会式の運営計画作成
- 2 会場設営図や使用物品一覧の作成
- 3 アナウンス原稿の作成

実行委員会立ち上げからこれらを分担して作成し、感染症対策を踏まえながら修正を重ねて参りました。また、東北各地の皆様が安心して笑顔でご参加いただけるよう、防災救護計画にも心配りをしております。分科会では、東北各県や県内支部の活動がより身近に分かり、魅力あふれる発表がされることと思っております。

実行委員として貴重な経験をさせていただくことに喜びを感じながら、大会当日は全日程が滞りなく進行できるよう各部と連携し運営したいと思っております。参加いただく皆様におもてなしの心で対応し、次世代へつなぐ大会を福島から発信していけるよう、さらに準備を進めて参ります。



## 広報部

大会HP・FB担当 只野 優香（五百川小）

広報部は、情報委員会8名と公募による実行委員4名で構成されており、大会公式HPの運用と大会当日のSNS投稿を担当します。大会公式HPでは、Googleサイトを活用したHPを開設し、大会に関する情報を発信しています。福島県ならではの写真を各所に掲載し、福島県の魅力をアピールして県内外の皆様に親しんでいただけるようなHP作りに努めています。



また、新たな試みとして大会の情報を発信するSNSが開設されています。大会当日の様子をFacebookとInstagramでいち早くお伝えできるように、準備を進めています。参加することができなかった方々にも、大会の様子を伝えることができるよう、写真の構図などを考慮しながら臨場感のある情報を発信していきます。当日の更新を是非チェックしてみてください。

14年ぶりに福島県で開催される東北大会を盛り上げていけるように、取り組んで参ります。皆様のご参加をお待ちしております。

## サクラ・ユーフォリア

～サクラ・ユーフォリアとは？～

東北大会福島大会の実行委員公募に対して、「大会運営に携わり、参加者の皆様をおもてなししたい！」という熱い気持ちを持った、22名の会員より応募がありました。このメンバーで「サクラ・ユーフォリア」を結成し、東北大会福島大会の魅力発信のために5つの班に分かれて活動を行っています。

コロナ禍で実際に集まって活動することができない、やりたいことがあっても制限がある、そんな限られた状況にもかかわらず、どの班もチャットやオンラインを使いながら班内で絆を深め、つながりを意識して準備を進めています。そんな、若さ溢れる精力的なサクラ・ユーフォリアの活動内容を紹介します！

### グッズ検討班

◎班長 井野 瞳子（平田小）

- ①大会当日に配布する手さげバッグの検討やデザインの作成
- ②浜通り、中通り、会津地方それぞれをPRできるデザインの作成
- ③浜・中・会津でどのようなデザインがされているか注目してみてください！

①活動内容

②工夫したところ

③当日の見所

### ユニフォーム作成班

◎班長 関根 麻純（小玉小）

- ①当日サクラ・ユーフォリアメンバーが着用するユニフォームの作成
- ②サクラ・ユーフォリアメンバーであることや福島県をアピールできるデザインの作成
- ③共通のユニフォームを着ているのがサクラ・ユーフォリアです。デザインに注目してみてください！

### 交流会内容検討班

◎班長 齋藤 日瑠里（藤原小）

- ①分科会後に実施する交流会の企画運営
- ②感染症対策を十分に講じ、県や世代の垣根を越えた『たくさんの学びのきっかけ』に重点を置いて検討
- ③名刺交換アプリを取り入れるなどの挑戦をしていますので、是非ご参加ください！

### 会場装飾検討班

◎班長 奥平 佳菜（小川小）

- ①新型コロナウイルス感染症拡大防止のための表示の作成
- ②安心して大会に参加していただくための表示の作成
- ③福島県のPRを入れるなど親しみやすいデザインを作成しています。是非ご覧ください！

### 広報紙作成班

◎班長 町田さゆり（入遠野中）

- ①大会開催まで広報「NEWS・ユーフォリア」を発行
- ②福島県や大会をPRする記事の作成
- ③東北大会福島大会HPに掲載されている記事の一部を、大会当日に掲示する予定です。是非ご覧ください！



## 令和4年度 新規採用学校事務職員研修を受けて

令和4年4月15日（金）に新規採用学校事務職員を対象としたオンライン研修が開催されました。今年度からの新規事業であり、義務教育課主催の研修が行われるのは、平成15年に研修体系が変更となって以来の約20年ぶりです。義務教育課と県事務研が連携して実施した本研修について、2名の参加者にオンラインでインタビューをしました。

回答者 ○國分 千夏さん（宮小）  
○高橋 凜空さん（富岡中）



◆義務教育課の講義「教職員としての心構えや県の教育施策について」を受講して学んだことと感想をお聞かせください。

**國分：**内容は第7次福島県総合教育計画や教職員の心構えについて、柔軟に対応することの大切さを教えていただきました。総合教育計画に沿った教育環境を目指すため、働いていくということを知りました。計画達成のために自分にできることを少しずつ行っていきたくと思いました。

**高橋：**福島県ならではの教育や、少人数教育の充実に係る取り組みについて学ぶことができて良かったです。

◆県事務研の講義・演習「学校事務職員の職務内容や仕事の進め方等について」講義の内容と感想をお聞かせください。

**高橋：**Google Jamboardを活用して、お互いに学校事務職員になった理由やこれからの目標などを発表しました。学校事務職員の仕事は全て児童・生徒につながっているという言葉を受け、教育を支えている意識を持つことができました。また、同期の意見を聞き、志をより高く持とうと思いました。

**國分：**演習を行ったことで緊張が和らぎました。同期の意見を聞くこともでき、不安を抱えているのは自分だけではないと感ずることができました。

◆県事務研の講義「学校事務職員として期待すること」を受講して学んだことと感想をお聞かせください。

**國分：**個人情報や金銭を扱うことが多いので不祥事に気をつけたいと思いました。災害時にも一人の教職員として動けるようになりたいと思います。

**高橋：**震災当時、学校再開のために学校事務職員がしてきたことを教えていただきました。学校のために全力を尽くすことができるようになりたいと思いました。

◆今後、どのような学校事務職員になりたいと思いますか？また、近い将来の目標や取り組みたいことはありますか？

**高橋：**自分自身の仕事を把握して、先生方の質問に自信を持って答えられるようになりたいです。また、問題解決のために何をすべきかを考えて行動していきたいです。

**國分：**質問をされたときに自信を持って答えることができ、周りから頼られるようになりたいです。また、旅費の把握をすることや勤務・サービスの管理を徹底することが2学期の目標です。

◆今回の研修を計画してくださった方々へ伝えたいことはありますか？

**國分：**研修を受けて、それまでに抱いていた不安が和らぎました。受け身の姿勢ではなく、自ら行動できるようになりたいと思います。丁寧に説明していただきありがとうございました。

**高橋：**研修で学んだことを生かし、成長していきたいです。4月に同期と顔を合わせ、お互いの目標を知ることモチベーションが上がりました。研修の場を設けていただきありがとうございました。

◆今回、インタビューを引き受けてくださった理由を教えてください。

**高橋：**今後もこの研修を設けていただきたいという思いを今回のインタビューを通じて伝えたいと思ったからです。

**國分：**来年度も同じように研修をしていただきたいという思いを伝えたかったからです。研修を開催していただき、感謝いたします。

同じ学校事務職員の先輩からの研修を同期とともに受けることができ、とても良い刺激になったようです。お二方とも目指す学校事務職員像に向かって頑張ってください。



# 新入会員紹介

今年度新たに採用されました12名を紹介します！

- ① 出身地
- ② 熱中しているもの・マイブーム
- ③ 学校生活のなかで打ち込んできたこと
- ④ どんな学校事務職員になりたいか



<p><b>郡山市立安子島小学校 大高 菜奈</b></p> <p>①矢吹町 ②アコースティックギター                      ③茶道 ④児童が学びやすく先生方が授業をしやすい環境づくりのため、細かいところに目を向けることができる学校事務職員になりたいです。</p>	<p><b>郡山市立三穂田中学校 國分 玲奈</b></p> <p>①本宮市 ②絵を描くこと                      ③写真 ④年間を通しての業務内容を把握し、スムーズな校務運営をできるようになりたいです。</p>
<p><b>会津若松市立湊小学校 加藤 千寛</b></p> <p>①会津若松市 ②一眼レフカメラ                      ③野球 ④学校現場において唯一の行政職として幅広い知識を持ち、教育活動に貢献できる学校事務職員になりたいです。</p>	<p><b>喜多方市立加納小学校 物江 芽留</b></p> <p>①喜多方市 ②高校野球観戦                      ③野球部のマネージャー ④知識を身に付けて仕事を覚え、先生方や保護者の方々など様々な人に頼られる学校事務職員になりたいです。</p>
<p><b>会津美里町立新鶴小学校 大西 凜</b></p> <p>①会津若松市 ②アーティストのライブ鑑賞                      ③陸上競技 ④積極的に学校運営に携わり、地域の方々との連携しながら子どもたちの学びを支援していきたいです。</p>	<p><b>金山町立金山中学校 橋本 正巳</b></p> <p>①郡山市 ②K-POP鑑賞                      ③野球 ④日々行う業務内容を早く覚え、周りの先生方や保護者の方々に頼られる学校事務職員になりたいです。</p>
<p><b>三島町立三島小学校 佐治 泰向</b></p> <p>①会津美里町 ②ドライブ                      ③硬式テニス ④先生方との連携を図り、児童が楽しく学校生活を送ることができるように、積極的に関わる学校事務職員を目指したいです。</p>	<p><b>相馬市立八幡小学校 江田 咲良</b></p> <p>①二本松市 ②韓国語の勉強                      ③吹奏楽 ④子どもたちにとって身近な存在になり、より学校生活が楽しいものとなるよう、児童との距離が近い学校事務職員になりたいです。</p>
<p><b>南相馬市立石神第二小学校 神山 武琉</b></p> <p>①郡山市 ②料理                      ③ソフトテニス ④自分の業務内容をしっかり把握し、周りの先生方との情報共有を図り、信頼される学校事務職員になりたいです。</p>	<p><b>南相馬市立小高中学校 三村 未夢</b></p> <p>①伊達市 ②音楽鑑賞                      ③卓球 ④今は先輩方に頼るばかりですが、これから少しずつ知識を身につけ、県事務研の一員として信頼される学校事務職員になりたいです。</p>
<p><b>富岡町立富岡中学校 高橋 凜空</b></p> <p>①福島市 ②絵を描くこと                      ③登山 ④一つ一つの仕事を丁寧かつ素早く処理できるように努め、先生方に頼られる学校事務職員になりたいです。</p>	<p><b>いわき市立宮小学校 國分 千夏</b></p> <p>①郡山市 ②管弦楽鑑賞                      ③管弦楽 ④今は周囲の方々に頼ってばかりですが、先生方を支えられるよう仕事をし、周囲から頼られる学校事務職員になりたいです。</p>

## 支部活動紹介

今年度の活動内容や支部の特色について、紹介いたします。

### 田村支部

理事 伊藤 哲也（三春町立三春小学校）

田村地区公立小中学校事務研究会は、小学校18名、中学校9名、計27名の会員で構成されています。「学校事務の夢をかたちに一子どもの豊かな学び・育ちを支援する学校事務の実践」を活動テーマに掲げ、「より広くかかわり合い、より深く学び合う新しい学校事務のバトンをつないでいこう」を重点テーマに今年度の活動を進めています。

これまで支部事務研活動の中核を担ってきた方々の退職が進み、次の世代へのバトンタッチが課題でしたが、県大会での発表を機に、自分たちのこれまでの活動を会員全員で振り返ることができました。次の世代の研修・研究を含めた活動のステップアップが課題ですが、昨年度末に会員から提出いただいた「ふりかえりステップアップシート」の活動の反省や翌年度の活動テーマ・研修したい内容などの一人一人の声を大切に、今年度も田村らしい活動を行っています。

### 東西しらかわ支部

理事 青戸 幸子（西郷村立西郷第一中学校）

東西しらかわ地区小中学校事務研究会は、小学校34名、中学校20名の会員で活動しており、今年で統合して7年目になります。研究テーマを県事務研と同一にし、サブテーマを『つなぐ つたえる つかさどる』としています。令和6年度に県大会での発表を控え、研究課題前期（令和2年～4年）を「プロアクティブ（先見的）学校事務職員を育てるには」とした人材育成、後期2年を「教員が子どもと向き合う時間を確保するためには」とした働き方改革・業務改善を行政職の視点と専門性から探求しています。

活動は、総会を含む年5回を計画しており、そのうち1回を県事務研研究大会等に代え、共同・連携実施や教育事務所主催研修会とのバランスを取っています。コロナ禍ではありますが、HPでの会報「みなみかぜ」発行や会員作成資料・ソフトの共有や蓄積などからは会員同士の「つながり」を感じます。また、教育事務所主催研修会後の懇親会（コロナ禍で中止）や教員向けの『授業セミナー』への講師としての参加、校長会主催の『一人職代表者会議』への出席など他団体との連携も大変良好です。

### 北会津支部

理事 芳賀 喜代子（会津若松市立鶴城小学校）

北会津地区公立小中学校事務職員研究協議会は、会津若松市・磐梯町・猪苗代町の小学校26名、中学校12名、義務教育学校2名の学校事務職員で構成されています。現在「時代を見つめ、〇〇をつなぐ能力を高める」をテーマに活動しています。平成27年度から掲げる「〇〇をつなぐ」には、〇〇に様々な言葉を当てはめ、それらをつなぐ役割を私たち学校事務職員が担うという意味があります。専門性を生かして学校経営に参画し、学校教育の充実と発展に寄与できるようスキルを高め合っているところです。若手の会員が加入したことにより互いのスキルや経験をつなぎ、性別も世代も超え、現在と次世代をつなぐような展開ができればと考えます。コロナ禍でも活動の歩みを止めない努力を続けたいと思います。

編集後記

「新規採用学校事務職員研修」の参加者にオンラインインタビューを行いました。初の試みで緊張もありましたが、とても楽しく良い経験をさせていただきました。また、東北大会関係として、東北大会実行委員とサクラ・ユーフリアの活動内容を記事にしました。いよいよ開催される東北大会。「東北はひとつ」の思いを大切に、皆様の参加を心よりお待ちしております。（情報委員会）

e-mail : joho@kir.jp

